



＼ 海外留学中の大学生が考える ／

## 日本と海外の医療制度の違い

# THE NEWZ

NOVEMBER 2023 VOL.13

日本語版

## CONTENTS



2 発行にあたって

\ 海外留学中の大学生が考える /

## 日本と海外の医療制度の違い

- 3 **アメリカ** 橋詰加菜 臓器移植、移植医療の日本とアメリカの違い
- 5 **アメリカ** 中村百花 アメリカと日本の不妊治療
- 7 **アメリカ** 西山七海 日本とアメリカの東洋医学への見方について
- 9 **フランス** ピダーソン緑 4人に1人が喫煙者フランスのタバコ事情
- 11 **オーストリア** 新垣春佳 オーストリアの医療制度
- 13 メンバー紹介
- 15 参考文献



撮影場所：ポーランド・クラコウ

撮影者：山崎葉奈

## 発行にあたって

日本の国民は国民皆保険制度の下、医療を享受する機会に恵まれてきました。

しかし少子高齢化の進行に伴い、若年層における社会保障費の負担増大が見込まれることに加え、コロナ禍で海外と比較した際の医療制度の欠点が露呈する等、現在、日本の医療制度を見直す必要性が高まっています。また、海外諸国と比べて医療サービスの受益者である患者（国民）の声が医療政策に反映されにくいという課題もあり、社会保障費の負担感が高い若者の間では、医療制度設計に参画したいとの声も高まっています。

この現状を踏まえ、新時代戦略研究所とジャパン・カウンセラーズは、将来の日本を担う若年層に向けて、今後の社会保障・医療保険制度や医療制度の在り方を考えるきっかけ作りとなる、マンスリー・レポートの発行を行うことしました。海外留学生が現地の医療制度と日本の医療制度との違いを象徴するようなエピソードを情報収集、取材し

て日本語、英語でレポートを執筆します。

タイトルの「The NewZ (ザ・ニューズィー)」は「Z世代」が意識されています。このニューズレターはプロジェクト立ち上げから原稿執筆、編集までのすべてを「Z世代」の大学生が中心となって担っています。読者の皆さんが自分の世代の医療制度、さらに

はその先の未来の医療制度に関心を持ってくだされば幸いです。



[英語版はこちら](#)

# 臓器移植、移植医療の日本とアメリカの違い

橋詰加菜

リンデンウッド大学



日本の医療ドラマや現実世界でも、臓器移植を受けるために海外に行くことを余儀なくされる患者さんがたくさんいることを目にします。アメリカで生活する中で、日本の医療は発達しているは

ずなのに、なぜ日本で臓器移植をできないケースが多いのかについて深く調べたいと思います。今回は日本の臓器移植が進んでいない理由をアメリカと比べて発信していきます。

## 日本の臓器提供数

海外主要国の100万人あたりの臓器提供数を見てみると、アメリカが44.50人であるのに対し、日本は0.88人と圧倒的に少ないことがわかります。アメリカでは毎年約1万4000人が死後に臓器提供し、臓器移植が約4万件行われています。これに対して、日本では人口1億2000万人に対して、年間わずか100人前後

が死後に臓器提供し、臓器移植は約400件程度しか行われていません。この統計を見ると、アメリカだけでなく、ヨーロッパの他の国々との比較でも、日本の臓器提供率が非常に低いことが明らかです。



※フランスのみ2021年のデータ

世界の臓器提供数（100万人当たりのドナー数）

出典：IRODaT(DTI Foundation)(2022年)

## なぜ日本の臓器提供数は他国と比べて格段に低いのか

日本の臓器提供数が他国と比べて低い理由は、まず提供者数が圧倒的に少ないことと、また、臓器提供には時間のかかるプロセスがあり、臓器提供することができる医療機関に限られることが挙げられます。2021年において、日本には提供施設として認定された医療機関が合計891施設存在しました。しかし、厚生労働

省の調査によると、このうち約51%にあたる455施設では臓器提供体制が整備されておらず、さらに約17%の148施設では提供体制が限定的であると報告されており、実際に提供体制が整備されているのはわずか32%に当たる288施設だけであることが明らかになりました。

臓器提供をする場合、

1. ドナーの特定：ドナー（臓器提供者）の対象となるのは、事故

や病気などで救命救急センターに搬送され、最善の治療を施して

も助かる見込みがないと主治医が診断したケースです。この段階で家族に臓器提供に関する情報提供が行われます。

2. 家族の同意：家族に臓器提供についての情報が提供され、家族から「臓器移植について話を聞きたい」との申し出がある場合、臓器移植コーディネーターが派遣され、家族に詳細な説明を行います。

3. 脳死判定：家族が臓器提供を決定した場合、法律に基づいた脳死判定が2回行われます。脳死判定は経験と知識のある医師2人

これらのプロセスを行うことができるのは大学病院や日本救急医学会の指導医指定病院、救命救急センター認定施設など、特定の「5類型」と呼ばれる施設に限定されています。

アメリカで臓器提供を早く行うことができる点として、移植医療システムが日本と違うことがあげられます。アメリカでは、全米移植教会(UNSO)という機関があり、アメリカ全土の移植待機者リストを管理しています。この機関で、臓器提供者が現れた場合、どの患者に臓器を提供するのかを決めます。特に重要な役割を果

## JOTとは

JOTとはJapan Organ Transplant Networkの略で、日本語では「日本臓器移植ネットワーク」と呼ばれます。このネットワー

## Opt-outとOpt-in制度

Opt-out制度とは、患者さんが死後に臓器提供をしたくないという意思表示がない場合に医師は臓器提供を行う制度です。一方でOpt-in制度では、臓器提供したいという意思表示がある場合、医師は臓器提供を行います。日本、アメリカ、韓国、ドイツでは

## 移植待機問題

1997年から2022年までに、日本国内で行われた臓器移植は7071件でしたが、移植待機中になくなってしまった方の人数は

## 脳死に対する考え方

多くの国、特に欧米諸国では、「脳死は人の死」と見なされ、脳の主要な機能である大脳、小脳、脳幹のすべての機能が喪失した状態を「脳死」と認識しています。ただし、イギリスでは、脳幹のみの機能の喪失でも「脳死」とみなすことがあります。

## まとめ

日本の臓器提供が他の国と比べて少ない原因に、臓器提供のプロセスを行うことができる医療機関が少ないこと、臓器提供者数が希望者数に比べて圧倒的に少ないことがあげられます。また、日

によって行われ、2回目の判定が死亡時刻となります。家族が立ち合うことも可能です。

4. 移植の手続き：コンピューターによって条件に合致した移植者が選ばれ、臓器摘出手術が行われます。提供された臓器は移植手術が行われる医療機関に運ばれます。

5. 提供者の体の処理：提供者の体はきれいに縫合され、家族に返されます。角膜（眼球）の移植が行われた場合、義眼が入った状態で返されます。家族が途中で提供を中止することも可能です。

たしているのはコーディネーター（Recipient Coordinator）で、主に臓器を振り分けたり、ドナーの家族と話したり、臓器を輸送するためのパッキングをしたりする役割をになっています。日本にも移植コーディネータはいますが、ほとんどが看護師となっていて、コーディネーターが不足しています。アメリカでは、国全体が連携して臓器提供を行っていることが日本の臓器移植システムと異なる点であると言えます。

クを通じて、臓器移植希望者の登録や臓器提供希望者と臓器を移植希望者の橋渡しを行う機関です。

Opt-in制度を使用していますが、イギリス、フランス、スペインなどのヨーロッパの国々ではOpt-outの制度を導入しています。\*家族の反対がある場合は臓器提供は行われません。

7949人でした。JOTのデータによると、移植待機中に亡くなる方も増加傾向にあることがわかります。

対照的に、日本では、脳死の状態を人の死とみなすのは、臓器提供が前提とされる場合に限られます。この文脈でのみ、脳死が人の死として扱われています。

本の脳死の考え方である、臓器提供が前提とされる場合に脳死とみなすことも臓器提供が発展していないと考えられます。

# アメリカと日本の不妊治療

中村百花

カリフォルニア大学ロサンゼルス校



## はじめに

皆さんこんにちは！私は現在ロサンゼルスに住んでおります。最近、LAの不妊治療クリニックのラボディレクターとお話する機会がありました。お話しの中で、世界中の何百万組ものカップルが不妊と向き合っていることを学びました。幸いにも、医療が発達した今現在、私たちには様々な不

妊治療の選択肢があります。ただし、不妊治療の費用、方法、利用のしやすさは国によって大きく異なることがほとんどです。この記事では、アメリカと日本の不妊治療の違いを文化的背景の観点から解説していきます。

## 不妊治療へのアクセス

アメリカでは、保険適用、地理的位置、経済的地位などの要因によって、不妊治療の受けやすさが決まります。悲しいことに、不妊治療の保険適用がない場合、高額な治療費になってしまう場合がほとんどです。この状況を避けるべく、いく

つかの州は、不妊治療の保険適用を保険会社に義務付ける法律を制定しています。カリフォルニア州がその一例です。実際その地域では不妊治療へのアクセスが改善されました。



[アメリカの保険適用地図]

地理的な観点からみると、不妊治療のクリニックや専門施設は都市部に集中していることが多く、農村地域では選択肢が限られています。

多くの不妊治療クリニックが存在するカリフォルニア州ですが、すべての保険プランが不妊治療に対応している訳ではありません。例えば、体外受精 (IVF) を受ける場合、保険の適用は、雇用主が提供する健康保険プランのみ可能で、個人向けの健康保険プランでの対応はほぼありません。さらに、この州で IVF を含む健康保険プランを提供している雇用主は Google、Apple、Facebook、Tesla、Warner Bros. などの大手企業のみと想定されています。

一方、日本の不妊治療へのアクセスは文化的要因と政府の政策に影響を受けています。

2022年4月、日本政府は不妊治療を保険適用の対象にすることを決定しました。この決定以前は、不妊の原因を明確にしない限り保険の適用はありませんでした。もちろん、正確な原因を探る検査にもお金がかかります。そのため経済的な理由から不妊治療をためらうことが多々ありました。今では、基本的な治療が保険適用されるため、不妊の悩みを抱えた全てのカップルが治療を受けることが奨励されています。

不妊治療に関する決断は文化的要因が関係している場合もあります。不妊治療のために有給休暇が必要と上司に伝えた所、昇進に影響に繋がってしまったり、同僚に噂が伝わってしまったり、仕事との両立は難しい、非難や孤立を避けたいという結論に至り、治療を諦めてしまう人もいます。一方で、親族から期待混じりの

励ましの言葉をかけられたりと、生物学的な子供を持つことに対するプレッシャーから不妊治療を受ける場合も見受けられます。しかし、副作用で苦しんでいる最中に悪気のない一言を言われ、辛くなったと綴っている経験者も多々見受けられます。不妊治療を受けている人々に対してどのような支援を行っていくのか、今後焦点を当てるべき課題と言えます。

## 不妊治療の技術

アメリカは補助生殖技術 (ART) の分野で先駆的な役割を担っています。その中でも体外受精 (IVF) は広く行われており、この治療を提供する多くのクリニックが存在しています。体外受精に加え、アメリカは卵子と精子の提供、および胎児代理母の確立されたシステムを持っており、不妊の問題を抱えるカップルにさまざまな選択肢を提供しています。



[体外受精 (IVF) 治療のイラスト]

## 費用

実際にアメリカと日本の体外受精の費用を比較すると、大きな格差が明らかになります。アメリカではこの治療はかなり高額です。例えば、ロサンゼルスでのミニ IVF サイクルの費用は通常約 8,700 ドル (約 130 万円) であり、これにはすべての専門家の診察と実験室の費用が含まれています。対照的に、日本では保険が適用される場合、体外受精の費用は最大でも約 12 万円にとどまります。さらに、日本では高額な医療費をカバーする「高額療養費制度」も利用できます。この制度により、年収に応じた自己負担額の上限が設定され、それを超える支出があれば、一部の費用が戻ってくる仕組みです。

アメリカでの高額な不妊治療費用と、保険適用が限られた人にしか提供されないことにより、貧富の差や平等に関する問題が浮き

## 結論

アメリカと日本の不妊治療の受けやすさの違いは、医療制度、文化的要因、社会的地位などに影響されています。両国ともに不妊治療へのアクセスを拡大し、不妊に関連する社会的な偏見を減少させるために少しずつ前進しています。他の国では不妊治療の問題にどう対処しているのかを知ることは、より良い不妊治療の選

択を可能にします。個人的には、不妊を解決するためには、政府が保険制度を改善するだけでなく、企業に対して産休と育休を含む福祉制度の提供を奨励すべきだと考えています。これは特に若者にとって、キャリアと不妊治療を両立させるために欠かせないことです。

# 日本とアメリカの東洋医学への見方について

西山七海

ウィルダネスアウェアネススクール



みなさん、こんにちは。9月からアメリカのシアトルの学校で自然関係の勉強をしています。学校が始まってすぐ、授業で薬草のトピックが取り扱われました。そこで、東洋医学について友達に尋ねてみたところ、私の予想以上に多くの方がそれについて知っており、中には実際に治療を受けた経験のある人までいて、あまりにも驚きました。それは、私にとって、漢方や鍼などの東洋医学は中国由来でアジア

的なイメージが強いと思っていたからです。ですが、ここ近年、アメリカでは、日本以上に治療の一環として受け入れられる傾向があることを知りました。なので、今回は、東洋医学について、その歴史からアメリカと日本における現状、そして東洋医学に対する見方を紹介していきたいと思えます。

## 東洋医学とは？

東洋医学は、月鍼・灸・按摩療法、食事療法、漢方療法で構成されています。体の内側から根本的に治す治療を目的としている医学。また、病気を未然に防ぐため、日頃から

疲れを溜めずに抵抗力をつけておくというのも東洋医学の考え方の一つです。



## 東洋医学の歴史

東洋医学は古代中国で生まれた考え方で、およそ二千年の歴史を持つと言われています。日本に伝わったのは遣隋使や遣唐使が中国に渡った7世紀頃。一方で、アメリカに東洋医学が伝わったのは、1800年代頃で中国の移民者から

持ち込まれたとされています。ですが、アメリカでは世間に大きく広まることはなく、本格的に国内で広まったのは1970年代とされています。

## アメリカの東洋医学の現状

アメリカでは東洋医学が広まってから、数十年ほどしか経っていません。それにも関わらず、全体としては医療の一環

として、東洋医学に対する認知が高まっています。主な理由として医療費の高騰があげられます。それと同時に現代医

療では対応できなくなった病気や症状が多くなりました。それを補完するために、天然自然の薬草を用いた漢方薬や鍼治療が大きく注目を浴びています。

採用されている例の一つとして、健康保険が適用疾病に対して、鍼治療をカバーするようになったことがあげられます。また、米軍に鍼灸師の常勤職が設けられたことも大きく取り上げられました。また、研究によると、米国成人の50%が少なくとも1回は補完代替医療（CAM）を受けていることが調査によって判明しました。その中でも鍼治療を選択した人が最も多いようです。

米国では、通常の医療を補完するという意味を持った補完代替医療 Complementary and Alternative Medicine (CAM) という用語があります。CAMとは、鍼灸、漢方薬、指圧、気功、マッサージ、ヨガ、カイロプラクティックなど、西洋医学の範囲に収まらない治療法の総称です。1992年、国民の関心の高まりにより、国立衛生研究所 (NIH) に国立補完代替医療センター (NCCAM; <https://nccam.nih.gov>) が設立されました。2005年には、NCCAMは1億2,000万ドル以上の研究資金を支出し、この額は毎年増加し続けているようです。NCCAMからの資金提供を受けて、米国の15の大学にさまざまなCAMセンターが設立されたり、各大学はその専門分野でCAM医学研究を開始しました。漢方薬は特に、生活習慣病、慢性病などの予防、改善効果も認められ、研究開発が活発化しています。そのため、現在、アメリカは漢方薬の研究開発では世界の最先端を進んでいます。また、米国のミレニアル世代は、従来の医療よりも代替医療や自然療法を積極的に試す傾向があることが、調査により明らかになったと言われています。ミレニアル世代は他の世代に比べて代替医療を求める傾向が40%高く、68%が栄養補助食品を摂取しています。また、処方薬を服用する可能性が低く、鍼治療、運動、瞑想、サプリメントなどの補完医療を使用する可能性が高くなっているそうです。

## 日本の東洋医学の現状

一方、日本では、医療法により、保険医療機関内で、鍼・灸治療をする事が認められていません。中国の天津中薬研究所附属病院で、脳出血に鍼治療を併用したり、入院中に鍼治療を行った場合、後遺症の可能性が極めて低いことが、多くの学会で紹介・発表されているにも関わらず、日本の医療制度はまだ鍼灸治療を導入していません。ですが、医師が日常診療で漢方薬を使うケースが増えており、実際に薬と漢方、両者を併用することで有効であったケースが数多く報告されるようになってきました。今では、漢方薬を使用している医師は8割にものぼっていると報告されています。東洋医学だけですべての病気が治るわけではありませんが、東西両医学を融合させていくこと、また、一人ひとりにもっとも合った治療法を選ぶことがこれからもっと重要になってくると思えました。

# 4人に1人が喫煙者フランスのタバコ事情



ピダーソン緑	ネオマビジネススクール
--------	-------------

みなさん、はじめまして。今回は、フランス北部のシャンパーニュ地方からお便りを書いています。数々のシャンパンハウス、歴史的で、厳かな教会、穏やかでのんびりとした雰囲気。この小さな街に住み始めてもう2年目になりますが、今でも素敵な場所だなどつくづく思います。そんな私ですが、渡仏当初は、フランスと日本の違いについていけなかったり、行政の手続きがうまくいかなかったり、歯痒い思いもたくさんしてきました。中でも驚いたのが、喫煙者がとても多いことです。若者から年配者まで、女性も男性も、道端でも大学でも、どこにいてもタバコを吸っている、そんな光景を見た時は、本当に驚きました。今回はそんなフランスのタバコ事情のあれこれを日本と比較しながら紹介していきます。



## フランスのタバコ事情

では、実際にフランスの喫煙者はどれくらい多いのでしょうか。2021年の調査では、25.3%と163カ国中19番目、そして先進7カ国の中では一番多くなっています。ちなみ

に日本は、16.7%です。しかし、内訳をみると面白い事実が…。

フランス	男性喫煙者	27.8%
	女性喫煙者	23%
日本	男性喫煙者	27.1%
	女性喫煙者	7.6%

なんと、見て分かる通り、男性喫煙者の割合はほとんど同じなんです。女性の喫煙者が多いために、全体の割合が跳ね上がっていたんですね。そもそもなぜ女性喫煙者が多いのか。これには文化的背景があります。日本も含めてですが、多くの国でタバコには男性的なイメージが付けられています。日本では、ドラマ、映画、広告、どんなメディアでも、女性の喫煙シーンに出会うことはそうそうありません。女性の喫煙は社会的に受け入れ難いが男性の場合は容認でき

る、そんなイメージが無意識のうちに形成されていたりします。一方フランスでは、1970年代から女性の喫煙率は上昇をみせ、今でも約5人に1人が喫煙者となっています。原因としては、早期から始まったフェミニズムに加え、かつてフランスのタバコ会社が女性をターゲットとし、女性向けのデザイン、香り、低い毒性を謳った商品を販売促進していたことが挙げられます。

## 吸う権利も、健康を守る権利もある

いかなる場合でも、タバコが人体に悪影響を与えることに変わりはありません。フランス政府もこの現状を深刻に受

け止め、数々の政策が実施されています。

- 1991年：広告が禁止に。
  - 2006年：屋内の喫煙が罰則付きに。
  - 2007年：学校、公共交通機関、病院など一部の施設で禁煙に。
  - 2008年：カフェ、レストラン等でも禁煙に。
- このように徐々に規制は強化されており、その取り組みは今も続いています。

## 衝撃のパッケージと値段

中でも顕著なのが、パッケージと値段の取り組みです。フランスの大学に通っていると、喫煙者の友達ができることも少なくありません。休み時間に「ちょっとタバコ吸ってくる」と外に出る友達の手の中には、何とも酷い写真付きのパッケージが。これを見た時は正直、「吸う気失せないの?」と聞きたくまりました。日本では、注意文言の記載が義務付けられていますが、フランスでは、2017年から、無地のパッケージを使うこと、そして65%を写真付きの健康警告で占めることが義務化されました。また、タバコ税の増税を通じた値上げも際立っています。2000年、3.20ユーロ(500円)で購入できたタバコは、徐々に高価になり、昨年には10ユーロ(1570円)に達しました。日本での価格(約500-600円)に比べると、約3倍にもなるんですね。



## どう防ぐ? 受動喫煙

みなさんは受動喫煙がどのくらい危険なのかご存知ですか? 驚くことに、副流煙は主流煙より多くの有害物質を含んでいるため、影響がより大きいといえるそうです。実際日本では、かなり厳しい対策が取られており、2020年には原則屋内禁煙に、そして患者や子供が多い施設では喫煙所の設置すらも禁止となりました。また、屋外でも喫煙所を目にすること

は多く、決められた場所でタバコを吸うことが常識になりつつあります。この取り組みは、喫煙所以外での喫煙を減らすため、受動喫煙リスクを下げる役割があります。一方で、喫煙所付近を利用する人々からは、匂いや煙へのクレームが相次ぎ、受動喫煙を最小化する更なる改善が求められています。

一方、2024年にオリンピックを控えたフランスでも、屋外喫煙を取り締まる自治体が増えています。南フランスのニース市、マルセイユ市は家族連れの多いビーチを禁煙化、ストラスブール市は、市内の全公園を禁煙化しました。もう一つ、フランスで問題となっているのが吸い殻のポイ捨てです。吸い殻にはたくさんの有害物質が含まれており、その毒性は水中でも弱まらないそうです。火

災に繋がるだけでなく、環境汚染の原因を作ってしまう、そして清掃費用高騰の原因でもある吸い殻のポイ捨てに対処すべく、パリ市は2015年、罰金制度を設けました。ポイ捨てした人に対し、68ユーロ(1万700円)もの罰金が科されています。オリンピックまでに喫煙者、非喫煙者がどちらも気持ち良く過ごせるように、対策が急がれています。

## まとめ

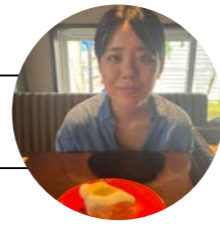
今回は、フランスと日本のタバコ事情を紹介しました。フランスで喫煙者が多いことに驚かれた方もいるかもしれませんが、人々が自分の健康を守る権利を持っていること、ただしタバコを吸うことも自由であること、対立し合う立場かもしれませんが、少しずつ共存への道を歩んでいるように感じます。比較的、受動喫煙対策が進んでいる日本でも、やはり煙や匂いに悩まされている方が

います。今後、日本は喫煙問題にどのように対処していくのか、一度考えてみてはいかがでしょうか。

# オーストリアの医療制度

新垣春佳

ウィーン大学



## はじめに

こんにちは、ウィーン大学留学中の新垣です。オーストリアって聞くとパッと想像しやすいのは音楽の都というイメージですが、実際にどのような国なのかあまり知ら

れていない気がします。そこで私からは、知っているように知らないオーストリアについて、とりわけ今回は医療制度について紹介していきます。

## 医療制度概観

第一に、オーストリアでは日本と同様、保険は公的なものと民間のもの二つに分けることができます。オーストリアでは国内で生活するすべての人に対し、健康保険 *krankenversicherung* の加入が必須となっており、法定健康保険 *Österreichische Gesundheitskasse / ÖGK* への加入が求められます。後者は、2020年以前には地域ごとに分かれていましたが、現在は国内全域を一括管理しています。実際に、オーストリアに住む750万人、人口の85%弱がこの法定健康保険に加入しています。この保険では、被保険者にあらゆる場合における医療保護を提供しています。保険料は収入によって異なりますが、支払った額に関わらず必要な医療サービスを受けることができます。また、被保険者の扶養家族も追加保険料なし、あるいは優遇料金でサービスを受けます。その内容は、以下の6点です。1点目は、疾病の早期発見のための青年期予防検診及び健康診断。2点目は、病気の治療（施設及び在宅）。3点目は義歯を含む歯科治療。4点目は給付金。これは、疾病を原因として就業不能になった場合の経済的保障を担保する疾病給付金、就業能力が低下した場合のリハビリ

給付金、長期疾病から復帰後の復帰給付金を指します。5点目は出産時の現物および現金給付。6点目は、管轄の健康保険機関による専門的カウンセリング。日本の国民皆保険制度と共通する点も多いです。ただし、日本では医療機関を受診する際の自己負担は1割～3割ですが、オーストリアでは場合によっては診察費の自己負担ゼロで受けることができます。この点については、後に詳しく説明します。余談ですが、ÖGKはオーストリアに留学に来ている私のような外国人学生も、最低加入期間半年を条件に加入することができます。費用は月額66.79ユーロです。保険に加入すると、e-cardと呼ばれるカードをもらいます。これは診察の際に重要となっており、日本の保険証のようなものです。e-cardは電子カルテへのアクセス機能も兼ねており、全ての医療機関で共有されるように仕組みられています。またe-cardには自動的にヨーロッパ健康保険が付帯されており、27のEU加盟国とアイスランド、リヒテンシュタイン、ノルウェー、スイス、UKで一時的滞在に限り医療サービスを受けることができます。

## オーストリアでの診察

ここまでは日本とオーストリアの医療制度はほとんど同じですね。ただ、次から日本とオーストリアの違いが目立ちます。オーストリアでは、日本のようにまず皮膚科や内科などの専門医に向かうことはありません。その代わりに、一般医である、ハオスアールツト (*Hausarzt*) と呼ばれる最寄のかかりつけ医の元を訪ねます。そこを訪れてはじめて、専門医の診察が必要なのか否か、かかりつけ医に診断してもらいます。そこで専門医の診察が必要と判断された場合、紹介状を渡され、患者はそれを持って専門医のいる病院に向かうこととなります。また、専門医は基本予約

制です。手術などの専門治療が必要となったときも、まずはかかりつけ医の紹介状が必要です。このように、専門医の診察を受けるためには必ずかかりつけ医を通さなければならないという原則がありますが、中には例外もあり、歯科医、眼科、婦人科、小児科などがそれに該当します。さて、かかりつけ医についてみてきましたが、一点注意事項があります。それは、場合によってはかなり待たなければならないことです。これには、オーストリアの医療費の支払いケースが大きく3種類に分かれていることが関係しています。その3種類とは、①全額保険適用、②自己負担、③自

己負担後の保険申請による一部払い戻し、です。（これらは通常、医療機関の看板に明記されています。）このため、全額保険でカバーできる医者は混雑必至となっているそうです。本当に体調がすぐれない場合、待つのは苦しいですね… そのため、このような事態を避けるために、日本同様に民間保険に加入する人もいます。民間保険では、待ち時間の短縮のみならず、より良い医療サービスも受けられるなど、オプションが充実しています。ただこの民間保険、保障の範囲にもよるのですが、大

人で最大月額100ユーロ（1万5千円）ほどかかるので少々高めです。

以上、オーストリアでの医療制度を紹介してきました。幸い、私はまだ現地で病院にかかるような事態にはなっていないので実情を十分に理解できているとは言い難いです。そのような機会があれば、実情レポートとして存分に記事を書いていきたいと思っています！Tschüss!



[ 医者の看板の写真 ]

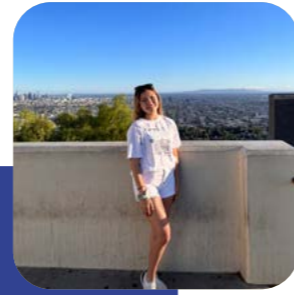
## [Reporters]



はしずめ かな  
**橋詰加菜**

リンデンウッド大学 (アメリカ)

アメリカと日本の医療制度の違いについてわかりやすく発信していきたいです！



なかむら ももか  
**中村百花**

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (アメリカ)

日本とアメリカで育った経験をもとに感じた医療制度の違いを紹介したいと思います。



にしまななみ  
**西山七海**

ウィルダネスアウェアネススクール (アメリカ)

国ごとに医療制度の違いを見ていくと新しい発見がたくさんあります。なので、知見を広げ、健康に意識を向けるきっかけになれば嬉しいです。



ピダーソン みどり  
**緑**

ネオマビジネススクール (フランス)

海外の医療制度を知ること、日本の医療制度の長所や改善点を分かりやすくお伝えします。



あらがき はるか  
**新垣春佳**

ウィーン大学 (オーストリア)

わかりやすく、かつ内容豊富な情報を発信します。

## [Editors]



やまざき かな  
**山崎 菜奈**

金沢大学

ロンドンから日本に帰国しました！編集・レイアウト担当としてTheNewZの制作に携わります。多くの人に読んでもらえる嬉しいです。



なかむら ももか  
**中村百花**

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (アメリカ)

日本とアメリカで育った経験をもとに感じた医療制度の違いを紹介したいと思います。



ピダーソン みどり  
**緑**

ネオマビジネススクール (フランス)

海外の医療制度を知ること、日本の医療制度の長所や改善点を分かりやすくお伝えします。



# 参考文献

## 橋詰

世界の臓器提供数（100万人当たりのドナー数）

<https://www.jotnw.or.jp/explanation/07/06/#:~:text=%E3%82%A2%E3%83%A1%E3%83%AA%E3%82%AB%E3%81%A7%E3%81%AF%E3%80%81%E4%BA%BA%E5%8F%A33%E5%84%84,%E5%B0%91%E3%81%AA%E3%81%8-4%E3%81%AE%E3%81%8C%E7%8F%BE%E7%8A%B6%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82>

日本の「臓器移植」問題点は？ 現状と課題まとめ <https://www.nhk.or.jp/minplus/0009/topic055.html#:~:text=%E3%81%9D%E3%81%AE%E7%90%86%E7%94%B1%E3%81%AF%E3%80%81%E8%A8%80%E3%81%86%E3%81%BE%E3%81%A7%E3%82%82%E3%81%AA%E3%81%8F,%E3%81%A8%E8%80%83%E3%81%88%E3%82%89%E3%82%8C%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%Ehttps://toyokeizai.net/articles/-/642538?page=33%80%82>

日本で臓器移植があまり行われていない理由

<https://toyokeizai.net/articles/-/642538?page=3>

脳死に対する日本と海外の考え方の違い

<https://www.jotnw.or.jp/explanation/03/01/#:~:text=%E6%AC%A7%E7%B1%B3%E3%82%92%E3%81%AF%E3%81%98%E3%82%81%E3%81%A8%E3%81%99%E3%82%8B,%E3%81%AE%E6%AD%BB%E3%81%A8%E3%81%95%E3%82%8C%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>

日本の臓器移植の課題

[https://www.nhk.or.jp/kenko/atc\\_1615.html](https://www.nhk.or.jp/kenko/atc_1615.html)

アメリカの臓器移システム

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/kango/wp-content/blogs.dir/65/files/2015/09/0f5aed27060829b52ee2726427910a30.pdf>

コーディネータの不足

<https://www.asahi.com/articles/ASQDG5HBXQDFUTFL001.html#:~:text=%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%87%93%E5%99%A8%E7%A7%BB%E6%A4%8D%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%88%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%82%AF%E3%81%AB,%E5%A4%9A%E3%81%8F%E3%81%8C%E7%9C%8B%E8%AD%B7%E5%B8%AB%E3%81%A0%E3%80%82>

## 中村

アメリカの保険適用地図

<https://resolve.org/learn/financial-resources-for-family-building/insurance-coverage/insurance-coverage-by-state/>

不妊治療を受けるカップルアメリカ

<https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC9302705/>

不妊治療を受けるカップル日本

<https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/700/466622.html>

IVF イラスト

<https://www.verywellfamily.com/understanding-ivf-treatment-step-by-step-1960200>

収入

<https://www.dol.gov/agencies/ofccp/about/data/earnings/race-and-ethnicity>

人種別不妊治療

<https://www.apa.org/pi/women/committee/infertility-bipoc#:~:text=Some%20have%20found%20that%20married,treatment%20than%20White%20women%206.>

## 西山

アメリカ軍隊への鍼治療導入について

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/23929047/>

NCCIH について

National Center for Complementary and Integrative Health (NCCIH)

アメリカで漢方が注目されている理由

[https://g-kampo.com/america/1\\_index.html](https://g-kampo.com/america/1_index.html)

米国のミレニアル世代の代が医療法についての考え方

<https://www.abbott.com/corpnewsroom/nutrition-health-and-wellness/millennials-and-health--giving-young-people-what-they-want--and-.html>

鍼灸治療の現状 日本

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/kampomed/65/4/65\\_321/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/kampomed/65/4/65_321/_pdf)

## ピダーソン

Beguinet. E, Huber. L, Stuppy. K. R, (2021) Women, tobacco and human rights in France, Tobacco Induced Diseases

<http://www.tobaccoinduceddiseases.org/Women-tobacco-and-human-rights-in-France,143747,0,2.html>

GLOBAL AFFAIRS, Why Do French People Smoke So Much? We Explain

[https://globalaffairsexplained.com/why-do-french-people-smoke-so-much-we-explain/?utm\\_content=cmp-true](https://globalaffairsexplained.com/why-do-french-people-smoke-so-much-we-explain/?utm_content=cmp-true)

Statista(2021) Daily smokers among French population

<https://www.statista.com/statistics/937572/evolution-proportion-daily-smokers-by-gender-france/#:~:text=Despite%20an%20increase%20between%202019,to%2025.3%20percent%20in%202021.>

Tobacco Control Laws (2021) France: Tobacco Control Policies

<https://www.tobaccocontrolaws.org/legislation/policy-fact-sheets/france/summary>

THE LOCAL fr (2020), Marseille becomes latest French city to declares its beaches a no-smoking a no-smoking zone

<https://www.thelocal.fr/20200812/marseille-becomes-latest-french-city-to-declares-its-beaches-a-no-smoking-zone>

高橋大作 (2019) 屋外喫煙所っていいの？「煙が苦痛」JT・厚労省に直撃，朝日新聞デジタル

<https://www.asahi.com/articles/ASM484137M48PTIL00M.html>

SMOKINGSITE 健康経営と分煙対策コラム (2023)、受動喫煙と喫煙どっちが悪い？受動喫煙の方が影響は大きい！、TERMOTO

[http://smokingsite.jp/columns/all/judou\\_kituen\\_eikyou/#:~:text=%E5%8F%97%E5%8B%95%E5%96%AB%E7%85%99%E3%81%A8%E5%96%AB%E7%85%99%E3%81%A7%E3%81](http://smokingsite.jp/columns/all/judou_kituen_eikyou/#:~:text=%E5%8F%97%E5%8B%95%E5%96%AB%E7%85%99%E3%81%A8%E5%96%AB%E7%85%99%E3%81%A7%E3%81)

<https://www.asahi.com/articles/ASM484137M48PTIL00M.html>

CLAIR Paris (2020),『フランスの自治体が取り組む喫煙対策』一般財団法人 自治体国際化協会

<https://www.clairparis.org/ja/clair-paris-blog-jp/blog-2020-jp/1349-2019-11-07-16-43-41>

82 ガン情報サービス (2021) がん統計、喫煙率

[https://ganjoho.jp/reg\\_stat/statistics/stat/smoking/index.html#:~:text=%E7%94%B7%E6%80%A727.1%E5%96%BC%85%E3%80%81%E5%A5%B3%E6%80%A77.6,%E6%AD%B3%E4%BB%A3%E3%81%A7%E3%81%AF%E5%A2%97%E5%8A%A0%E5%82%BE%E5%90%91%E3%80%82](https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/smoking/index.html#:~:text=%E7%94%B7%E6%80%A727.1%E5%96%BC%85%E3%80%81%E5%A5%B3%E6%80%A77.6,%E6%AD%B3%E4%BB%A3%E3%81%A7%E3%81%AF%E5%A2%97%E5%8A%A0%E5%82%BE%E5%90%91%E3%80%82)

## 新垣

European Commision : European Health Insurance Card

<https://ec.europa.eu/social/main.jsp?catId=559>

Österreichische Sozialversicherung

<https://www.sozialversicherung.at/cdscontent/?contentid=10007.821628&portal=svportal>

日本におけるオーストリア：健康

<https://www.advantageaustria.org/jp/zentral/business-guide/investieren-in-oesterreich/leben-in-oesterreich/gesundheit/Gesundheit.ja.html>

Your guide to private and public health insurance in Austria

<https://n26.com/en-at/blog/health-insurance-in-austria>